

2012年度ルール改正(抜粋)

ISF(国際ソフトボール連盟)では、2010年1月から新しいルールが施行され、競技が実施されている。  
 JSA(日本ソフトボール協会)では世界選手権などの国際大会での運用・適用状況を確認していたが、  
 2012年度より投球規定に関するルールを採用することにした。

6-3項 正しい投球動作

1.~6.省略 (従来と変更ありません)

7.投手の軸足は、前方へ引きずったり、跳んだりする前は、投手板に触れていなければならない。

(注1)軸足は、投手板に触れたままであれば、投手板の上でスライドさせても良い。

軸足を投手板から持ち上げて、再び置き直すと不正投球となる。

(注2)投手板から蹴り出していれば、軸足を引きずったり、跳んだりして着地し、投球することは合法的である。

軸足を投手板から離し、前方へ移動させ、投手板に触れていない地点から投球すると不正投球となる。

8.投手板から軸足をずらして(投手板から離れた地点から)投球を開始し、投手板以外の地点を蹴り出して投球すれば、これは不正投球である。(クローホップ)

(注)投手は、投手板から蹴り出していれば、跳んで(リーピング)、着地し、一連の動作の中で投球しても良い。

軸足が投手板から蹴り出され、その後に軸足が一連の動作として動き続けている場合は、フォロースルーとみなし、クローアップとはみなさない。

9.~11.省略 (従来と変更ありません)

投手板の踏み方・踏み出し方

[右投げ投手]

【踏み出し方】

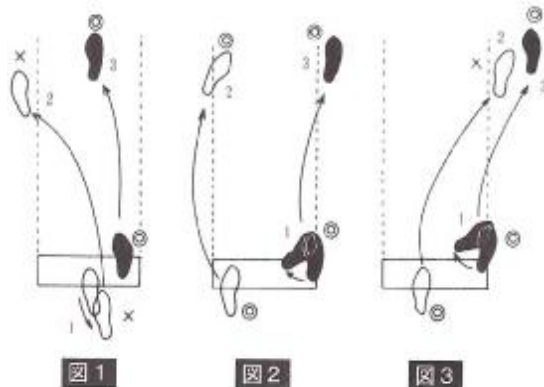
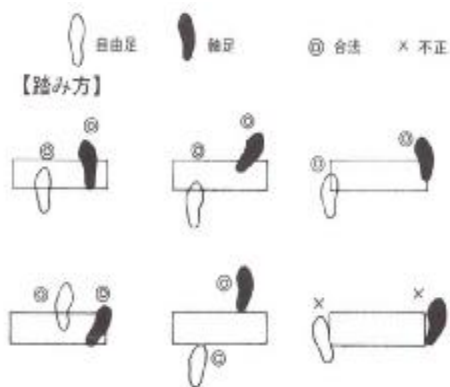


図3のように軸足の踵が一連の投球動作の中で投手板から離れても、つま先の位置が投球開始時と変わっていなければ(つま先が前方に移動していなければ)、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。

(注)自由足・軸足とも、両足が投手板に触れていれば、合法的な投手板の踏み方である。  
 ただし、足が投手板の側面だけに触れている場合は投手板に触れているとはみなさない。

図1のように自由足がバックステップして、投手板から離れると不正投球になる。ただし、一連の投球動作の中で、つま先が浮いて投手板から離れても、投球開始時と踵の位置が変わらなければ、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。

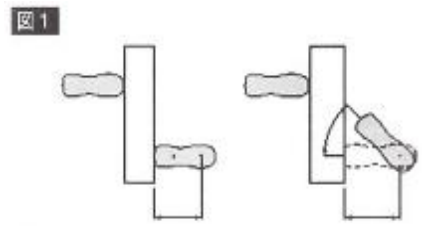


図1 投手板に両足が触れ、正しくセットしており、軸足のつま先の位置が投球開始時と変わらなければ、その後の一連の動作の中で踵が投手板から離れても不正投球とはみなさない。

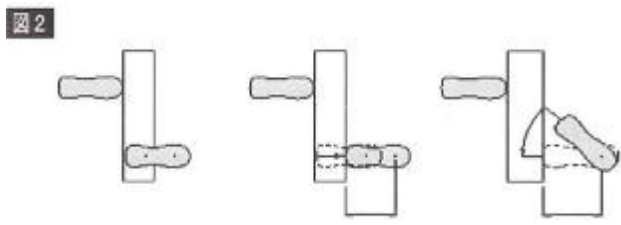


図2 投手板に両足が触れ、正しくセットしており、軸足が投手板の上を前方にスライドしても合法的な投球動作である。また、軸足のつま先の位置がスライドさせた地点と変わらなければ、その後の一連の投球動作の中で踵が投手板から離れても不正投球とはみなさない。

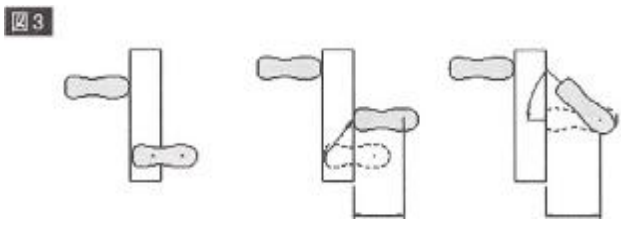


図3 投手板に両足が触れ、正しくセットしており、軸足が投手板の上を斜めにスライドしても合法的な投球動作である。また、軸足のつま先の位置がスライドさせた地点と変わらなければ、その後の一連の動作の中で踵が投手板から離れても不正投球とはみなさない。